

北海道(富良野・十勝・釧路・知床など)ドライブ旅行

小林信生 (2109/6/28 記)

○大阪在の義妹夫婦が、北海道へ行きたいと言っているので、昨年6月と同じようなルート(道央・道東)を辿り、6月9日(日)から13日(木)、4泊5日のドライブ旅行(走行距離850km)をした。

○初日(6月9日)、義妹夫婦は大阪伊丹空港から、我々夫婦は羽田空港から飛んで、旭川空港で落ち合い、レンタカーで、定番の旭山動物園をめざす。快晴、気温23.5度、快適な動物園見学となった。

あまり時間がないので、一番人気のアザラシ館とホッキョクグマ館を中心に観て回る。



いつも人気の円筒中のアザラシ



おやつタイムで餌を追っかける北極熊



水中を動き回るカバ

○2時間ほど動物園で遊んで、宿のある白金温泉へ向かう。白金温泉の近くには、最近、人気のスポットとなった「青い池」がある。昨年も訪れたが、広くて、立派な駐車場とお土産屋が、最近、新設されていて見違えるほど観光地化していた。池は、幻想的でインスタ映えするのか、若者や外国人観光客が多い。



人口溜池に硫黄分を含む水が流れ込み、幻想的な乳白色の池が出現



青い池の看板を掲げるお土産屋

○二日目(6月10日)、白金温泉を出発して、美瑛から富良野を抜けて、十勝川温泉へ向かう。

この日の興味は「花人街道237」沿いにあるお花畑巡りである。美瑛、富良野には、多くの花畑が立ち並ぶ。中でも一番規模の大きい「四季彩の丘」美瑛と「富田ファーム」富良野を訪れる。

この地で有名な花は、ラベンダーだが、それには少し時期が早かった。それでもスマイル、ポピー、ハマナス、ルピナス、フランス菊、サルビアなどは満開で、なだらかな丘陵地帯を彩っていた。



四季彩の丘のスマイル畑とポピー畑、向こうの丘陵はこれから咲く

富田ファームの菊、ルピナス、サルビア

○三日目(6月11日)十勝川温泉を出発し、釧路を目指す。十勝地方は、大雪山系、日高山系からの豊富な水が恵みとなって育まれる肥沃な平野で、米・麦、野菜、じゃがいも、果物など、大地の恵がふんだんに収穫できるところである。また、ただ今毎朝、放映されるNHK朝ドラ「なつぞら」の舞台としても全国的に名前が知れ渡り、観光に訪れる人も多いと聞いた。もう一つ、十勝は山梨、信州に勝るとも劣らな

いワインの産地である。十勝ワインのワイナリーがあるので、ワイン城に立ち寄る。



十勝平野を見渡す小高い丘に建つヨーロッパ風のワイン城



至るところに牧場があり のどかである

○十勝から120kmほど走ると釧路湿原の入り口に着く。釧路湿原は2万9千ヘクタール（東京都がすっぽりはまる広さ）の広大な湿原であり、湿原内を釧路川が蛇行して滔々と流れる。ここには、いくつかの展望台があるが、そのうち、三つを訪れる。最初に、西側の釧路市湿原展望台。ここは散策路があって、湿原の中を歩けるが、散策路が工事中で、湿原に降りることはできなかった。次は北側のコッタロ展望台に回り、そして、三番目に、東側の細岡展望台へと走る。この細岡展望台が一番、見晴らしが良く湿原全体が見渡せる。およそ、3時間で湿原を一周出来た。



釧路市湿原展望台



コッタロ展望台の眺望



細岡展望台の眺望



湿原内を流れる釧路川

○釧路市内の真ん中を流れる釧路川河口近くに幣舞（ぬさまい）橋がある。美川憲一が歌う歌謡曲「釧路の夜」に出てくる橋である。河畔に歌碑が立っており、その曲が流れる。



釧路川河畔に立つ歌碑



暮れなずむ幣舞橋詰めの賑わい



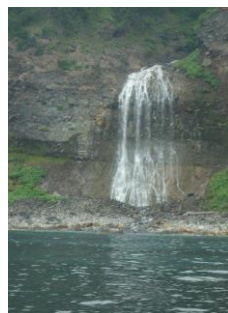
幣舞橋に並ぶ花時計

○四日目（6月12日）義妹夫婦を、女満別空港で見送り、我々夫婦は、知床まで足を伸ばす。

○五日目（6月13日）知床半島の岬までの、3時間クルージングを試みる。あいにく、天気がいま一つで、知床連山は雲の上。それでも、高速船は、世界自然遺産の知床半島を楽しませてくれる。



像岩



カムイワッカの滝



知床岬（日本最北東端）



旅の最後は、オホーツク海に向かって立つ能取岬灯台の前で

知床半島の海側は自然の大傑作を見ることが出来るので最高！

（左上のブラウザに戻って下さい）